

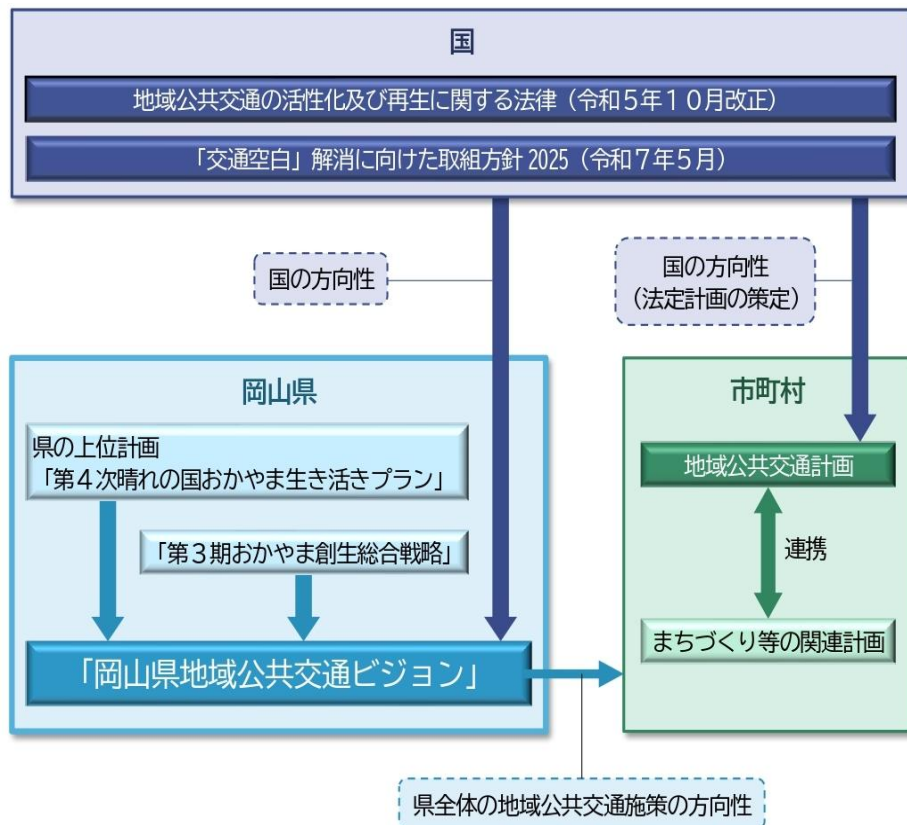
令和 8 年 7 月 3 日
令和 8 年度第 3 回玉野市地域公共交通会議



ビジョンの基本的な考え方

ビジョンの位置付け

国や県施策の方向性などを踏まえ県全体の地域公共交通施策の方向性を示す**指針**となるものです



ビジョンの策定経過

ビジョン策定会議

学識経験者、様々な分野の代表者、国土交通省等から意見を伺うための会議

ビジョン策定市町村会議

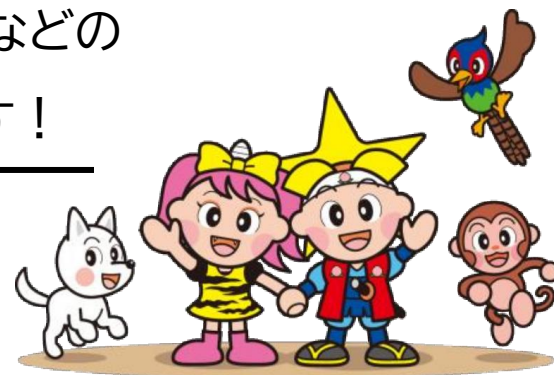
全市町村から意見を伺うための会議

令和7年 6月 2日	第1回策定会議
令和7年 7月 7日	第2回策定会議
令和7年 8月 4日	第3回策定会議
令和7年11月10日	第4回策定会議
令和7年11月25日	パブリックコメントの実施
～12月24日	
令和8年 2月 9日	第5回策定会議
令和8年 3月	ビジョン策定

ビジョンの基本方針

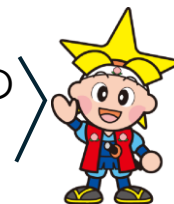
すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」の実現を目指して、国、市町村、交通事業者、地域住民等と連携しながら、多様な輸送資源を活用し、地域の実情に応じた、持続可能で利便性の高い地域公共交通体系の構築を進めるとともに、県民の公共交通利用を促進し、地域公共交通ネットワークの活性化を図ります。

将来にわたって、通勤、通学、買い物、通院、レジャーなどの目的に応じた交通手段が利用できる環境を目指します！

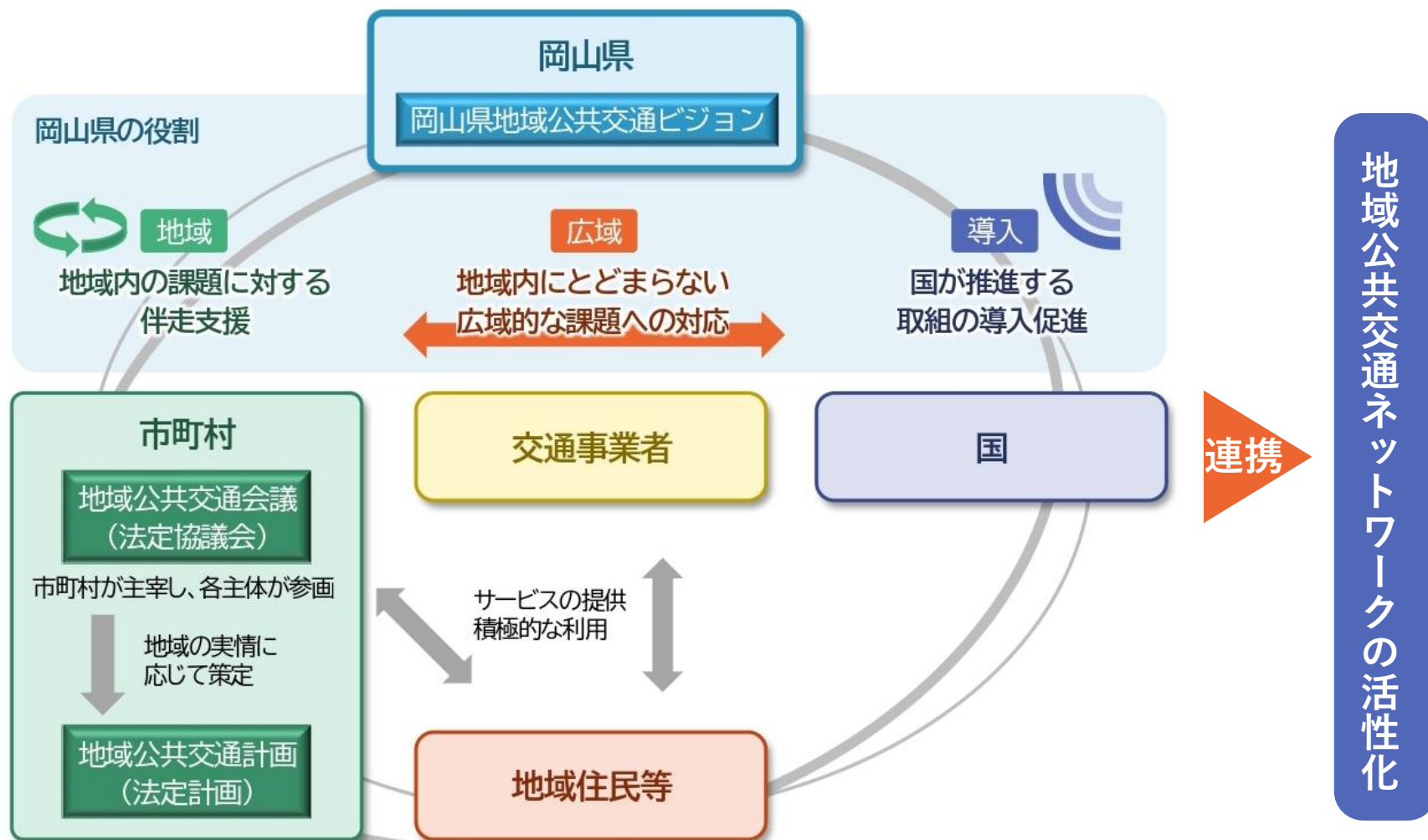


ビジョンの基本方針

取組の推進にあたっては、様々な主体がそれぞれの役割を果たしながら、**より一層連携を強化**します



県の役割及び各主体との連携



施策の方向性

現状・課題
現在の主な取組

目指すべき姿

今後の取組
期待される役割

ビジョンの体系

次の8つの項目について、それぞれ施策の方向性を示します

地域公共交通体系

1 広域交通の確保

- 移動の軸となる鉄道ネットワークの確保
- 地域をつなぐバス路線の確保
- 地域のくらしを支える航路の確保



2 二次交通の確保

- まちづくりとの連携
- 交通結節点等の機能強化
- 地域内交通の充実



3 多様な交通手段の確保

- 既存交通のサービス向上
- 地域組織との協働
- 他分野との連携



運行体制

4 交通分野の人材確保

- 担い手と呼び込む仕組みづくり
- 働き続けられる環境づくり
- 多様な人材の活用



5 デジタル技術の活用

- 交通データの利活用
- 省力化に向けた技術導入
- 誰もが利用しやすい環境整備



利用環境

6 ニーズに応じた利便性向上

- ニーズに応じた路線・ダイヤの充実
- バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進
- 情報提供の充実



7 自家用車から地域公共交通への転換

- 過度に自家用車に頼らない移動の推進
- 運転免許返納後の移動手段の確保



8 地域公共交通の利用促進

- 日常利用の習慣化
- 潜在的ニーズの掘り起こし



1 広域交通の確保



目指すべき姿

- 交通結節点などを拠点として、様々な交通モード間の連携が図られており、利用者にとってわかりやすく利用しやすい交通ネットワークが構築されている。
- 県内の主要都市間を結ぶ鉄道ネットワークが安定的に確保され、地域住民の通勤、通学、買い物、通院、レジャーをはじめ、県内外から訪れる観光客の広域的な移動手段として利用されるなど、日常生活や社会経済活動を支えるインフラとして機能している。
- 広域バス路線は、鉄道を補完し、中山間地域等と都市部を基幹的に結ぶなど、地域のニーズに応じた路線・ダイヤ等となっており、持続可能な運行が実現されている。
- 離島航路は、地域住民の生活航路としての役割に加え、観光航路として地域経済の活性化の役割も担いながら、持続可能な運航が実現されている。

今後の取組

- 移動の軸となる鉄道ネットワークの確保
- 地域をつなぐバス路線の確保
- 地域のくらしを支える航路の確保

期待される役割 ※県の役割の主なものを抜粋

- 複数市町村にまたがる交通の調整
- 運行欠損額等の継続的な支援

2 二次交通の確保



目指すべき姿

- まちづくりとの連携により、鉄道駅や乗継拠点といった交通結節点等において、二次交通につながるネットワークが構築されている。
- 多様な交通手段が効果的に連携することで、「交通空白」が解消され、地域住民が安心して日常生活を送ることができる移動環境が実現されている。

今後の取組

- まちづくりとの連携
- 交通結節点等の機能強化
(ダイヤ設定・待合環境等)
- 地域内交通の充実
(「交通空白」解消・観光地へのアクセス向上等)

期待される役割 ※県の役割の主なものを抜粋

- 地域内交通確保に向けた市町村への支援
- 「交通空白」解消に取り組む市町村への支援

3 多様な交通手段の活用



目指すべき姿

- 地域における多様な交通手段を活用しながら、地域住民等の様々なニーズに対応する交通サービスが提供されている。

今後の取組

- 既存交通のサービス向上
- 地域組織との協働
(地域全体で交通を支える仕組みづくり等)
- 他分野との連携
(スクールバス・送迎バスとの連携等)

期待される役割 ※県の役割の主なものを抜粋

- 公共ライドシェア制度の適切な運用に向けた指導・助言
- 市町村の交通サービスの最適化に向けた支援

4 交通分野の人材確保



目指すべき姿

- 多様な人材が意欲をもって交通分野に就業し、運転者等の必要な人材が十分に確保され、安定的な交通ネットワークが実現されている。

今後の取組

- 担い手を呼び込む仕組みづくり
(就職説明会の開催、資格取得助成制度等)
- 働き続けられる環境づくり
(就業環境の改善、業務の省力化等)
- 多様な人材の活用
(パートタイム、行政職員、外国人等)

期待される役割 ※県の役割の主なものを抜粋

- 全県的なマッチング機会の提供
- 関係団体と連携した普及啓発
- 多様な人材活用に関する情報提供

5 デジタル技術の活用



目指すべき姿

- 新技術・デジタル技術が活用されることにより、運行の**最適化**及び業務の**省力化**が実現されている。
- 公共交通に関する**情報に容易にアクセス**し、**快適なサービス**を享受できる環境が実現されている。

今後の取組

- 交通データの利活用
- 省力化に向けた技術導入
- 誰もが利用しやすい環境整備

期待される役割 ※県の役割の主なものを抜粋

- 全県的な交通データの標準化及びオープンデータ化の推進
- 市町村等が取り組む新技術・デジタル技術の導入に向けた支援（自動運転・配車システム等）

6 ニーズに応じた利便性の向上



目指すべき姿

- 地域の実情や利用者のニーズを踏まえた交通サービスの最適化が実現されている。
- バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方などを取り入れ、誰もが安全で快適に利用できる移動環境が整備されている。

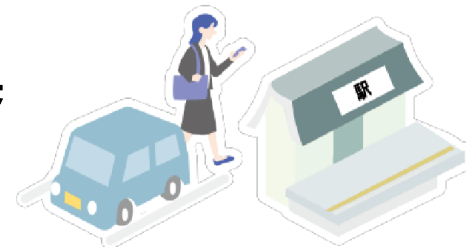
今後の取組

- ニーズに応じた路線・ダイヤの充実
- バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進
- 情報提供の充実

期待される役割 ※県の役割の主なものを抜粋

- 地域公共交通会議の参画等による地域の実情やニーズの把握
- 利便性向上やバリアフリー化等に取り組む市町村等への支援

7 自家用車から地域公共交通への転換



目指すべき姿

- 自家用車への過度な依存から脱却し、自家用車と公共交通が**効果的に組み合わせられた効率的な移動**が可能となっている。
- **運転免許を返納**しても安心して移動できる交通手段が確保されている。

今後の取組

- 過度に自家用車に頼らない移動の推進
- 運転免許返納後の移動手段の確保

期待される役割 ※県の役割の主なものを抜粋

- 過度に自家用車に頼らない移動の推進に向けた意識啓発
- 地域の実情に応じた交通サービス導入に取り組む市町村等への支援

8 地域公共交通の利用促進



目指すべき姿

- 公共交通に対する地域住民の理解が深まり、通勤、通学、買い物、通院、レジャーなどの**日常的な移動手段**として定着している。
- 公共交通が地域外からの**来訪者**にとっても利用しやすく魅力的なものとなっている。

今後の取組

- 日常利用の習慣化
(利便性等の周知・行動変容を促す取組等の実施)
- 潜在的ニーズの掘り起こし
(地域イベントとの連携等による新たな利用機会の創出)

期待される役割 ※県の役割の主なものを抜粋

- 全県的な利用促進事業の実施
- 様々な媒体や機会を捉えた広報・啓発活動
- 地域の実情に応じた利用促進に取り組む市町村等への支援

目指すべき姿の実現に向けて

- 地域公共交通を取り巻く状況が厳しさを増す中、様々な主体が連携した取組みが求められる
- 地域公共交通会議の重要性
 - 立場の異なる関係者の意見・情報が集まる場
(現場視点・利用者視点・経営視点・行政視点)
 - 課題や方向性を共有し、連携して取組むための基盤

引き続き、関係者の皆様とともに
地域公共交通の維持・確保に
向けて取り組みます！

